

東日本大震災からやがて1年がたとうと
しています。被災地ではがれき撤去作業が
続けられています。しかし、福島第一原子力発電
所の近くでは全く手つか
ずの状態です。まだまだ
支援が必要な状況です。

被災地では震災や原発
事故によっていまだ33万
人ものひとひとが避難生
活を強いられています。
商店、工場、漁港が流さ
れ、事業が行えず、仕事
を失い、いまだに職につ
けない人が多数残されて
います。

事業活動の再開は進ま
ず、職場の確保の見通し
も立たない中で失業手当
が打ち切られています。

災害からの復興のため
には、事業再開の支援と
働く場所の確保が求めら
れています。そうしたなか
で、漁民組合の結成や
仮設商店街の設置など復
興の兆しも見え始めています。

一方で両親や、父親か母親が亡くなった
り行方不明になっている未就学から大学生

の人数は1,000人を超えていると言われて
います。親戚に育てられている子どもも少
なくありません。

名大職組は震災直後
から、被災者に対する義
援金募金に取り組んで
きました。震災から1
年を経過しようとして
いる今、教育研究機関に
働き学ぶ者として、今回
は被災した遺児の就学
を援助するために、奨学
金募金に取り組んでい
ます。

皆様のご協力をお
願いします。

奨学基金の送り先は、
被災遺児の奨学金の寄
附を受け付けている、福
島、岩手、宮城各県の基
金です。

募金活動は、理系食堂
前、北部食堂前、南部食
堂前で行っています。

